

# 観 察 記 録 ノ ー ト

## 昆 虫

### ヒメギフチョウ終齢幼虫の 長距離歩行の一例

小野 章

筆者は2002年6月8日に長野県上伊那郡辰野町小野楡沢においてヒメギフチョウ終齢幼虫の長距離歩行を観察しているので報告する。

この日、生息地であるカラマツ林とアカマツ林の境界付近を一方向に歩行し始めた終齢幼虫を見だし、5分おきに位置をマークし、距離を計測した。その結果、この幼虫は14時10分から17時20分の3時間10分間に、合計30.29mという長距離を、直線的に図のようにほぼ等速（平均分速15.9cm）で歩行し続けた。歩行はその後も続いたが、日没が近づき、観察を打ち切ったため、その後どこまで移動したのかはわからない。個体識別のため体毛に白色と水色で着色し「白水」と名付けたその幼虫は、夕暮れのアカマツ林（食草が全くない林）に消え、その後姿を見なかった。

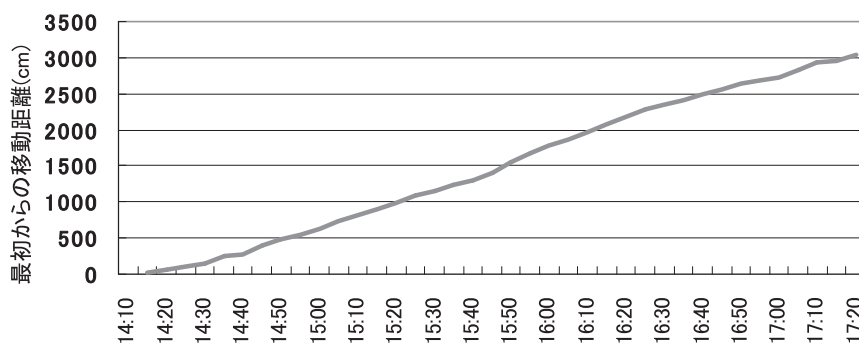
この幼虫はこれよりも前、6月5日から6月8日の3日の間にも490cmの移動をしていた（取り付いた食草を食べ尽くしたため次の株への移動）。6月8日の時点では周辺の食草は全て食べ尽くしていた。なお、6月5日における体長は21mmであった。

この幼虫は4月18日に葉数1枚の株に産卵された

13卵の卵塊から5月6日に孵化した1個体で（卵期13日）、5月11日に2齢（1齢期5日）、5月19日（と推定）に3齢（2齢期推定8日）、5月29日に4齢（3齢期11日）、6月3日に終齢（4齢期5日）にそれぞれ脱皮した。なお、この卵塊では、13頭の全てが孵化し、2齢までは全部が生存、3齢になったもの8頭、4齢になったもの4頭、5齢に達したものの2頭であった。

この長距離歩行の意味は推論するほかないが、浜栄一氏にこの話をすると蛹化のための移動ではないかと話された。もし、そうであるとすればこの例では最後の摂食場所から30m以上も離れた、食草の全くない林に移動したことになり、本種の蛹が野外で非常に見つけにくい原因の一つである可能性がある。

しかし、このときの「白水」は5齢になってからの日齢が5日目であり、藤沢ほか(1964)によれば飼育下での5齢期は7日～13日であるから、蛹化にはまだ2日～8日早いように思われる。蛹化のための移動でないとする、食草を食い尽くしての食草探索のための行動とも考えられるが、このとき、幼虫は食草を探索するという感じではなく、ただひたすらに直線的、機械的に歩行していた。「白水」は一直線に食草にぶつかるまで歩き続けたのだが、食草に接触できずに30m以上も歩き続けたのであろうか。もしそれがヒメギフチョウの食草探索の常態であるとする、本種は全く偶然に食草にぶつかるまで直線的に食草を求めて歩き続けるという行動様式を持つのだろうか。



2002.6.8の5齢幼虫「白水」の大移動

図1 2002.6.8の5齢幼虫「白水」の大移動

#### 引用文献

藤沢正平ほか, 1964. 長野県の昆虫  
ギフチョウとヒメギフチョウ,  
112 pp., 信濃教育会出版部  
(長野).  
  
(おの あきら/  
長野県上伊那郡辰野町小野 869-1)